

TOhoku
MMedical
Mmegabank
Oorganization

vol.

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構

News Letter | November 2012



CONTENTS

01	■東北メディカル・メガバンク事業 宮城県・東北大学協力協定を締結しました
	■シンポジウム みんなでつくる未来の医療 ー東北メディカル・メガバンク事業ができることー
02	■宮城県山元町の特定健康診査会場に伺いました ■七ヶ浜町 仮設住宅世話人会を訪問しました
03	TOPICS INTERVIEW 地域こども長期健康調査事業を開始 予防医学・疫学部門 菊谷 昌浩 准教授
04	PICKUP SCENE
06	COLUMN 欧州バイオバンク、ワークショップ視察 ゲノム解析部門 布施昇男 副部門長
07	■ToMMoクリニカル・フェロー制度の創設 ■東北メディカル・メガバンク事業に対して 文部科学省研究振興局 吉田大輔 局長
08	CALENDAR 2012

東北メディカル・メガバンク事業

宮城県・東北大学 協力協定を締結しました

宮城県と東北大学は、東北メディカル・メガバンク事業の実施に関する協力協定を締結しました。東北メディカル・メガバンク事業には、2011年6月の第9回東日本大震災復興構想会議で宮城県の村井嘉浩知事が行った提言の中で、「地域医療の再生への医療連携システムの構築と診療拠点の整備」のために、東北メディカル・メガバンク構想の実現の必要性が述べられたという経緯があります。それから一年以上を経て、協力協定の締結に至りました。式典は仙台で2012年9月18日に開催され、村井嘉浩宮城県知事と里見進東北大学総長が協力内容を定めた協定書に署名しました。

式典には文部科学省・復興庁の関係者をはじめ宮城県内の市町村長、保健・医療機関及び教育機関の関係者の方々にご列席頂きました。また式典に続いて事業の進捗説明会を行い、嘉数研二宮城県医師会長らからご祝辞を、井口経明岩沼市長にスピーチを頂きました。

今回の調印を通して、宮城県民の健康に資するための事業について東北メディカル・メガバンク機構は宮城県との協力を固め、循環型医師支援システムや住民の健康調査などをさらに進展させます。

01 | 調印後に協定書を手にする村井知事(右)と里見総長(左)。宮城県の協力を得て、今後の事業の進展が期待されます。

02 | 調印を祝して、サッカーJリーグよりベガルタ仙台のベガッ太と、バスケットbjリーグから仙台89ERSのティナが来てくれました。



シンポジウム

みんなでつくる未来の医療

ー東北メディカル・メガバンク事業ができることー

2012年10月6日、東北メディカル・メガバンク機構 (ToMMo) が東北に築こうとする未来型医療を語り合うシンポジウムが宮城県の後援で開催されました。本シンポジウムには、元プロボクサーの経歴を持つ川島実医師 (気仙沼市立本吉病院院長) や日本患者会情報センター代表・NPO法人アラジーポット専務理事の栗山真理子さんが招待講演者として登壇し、ToMMoの3人の教授も講演しました。

ToMMoからは主に地域医療支援と長期健康調査事業について説明し、川島医師からはToMMoへの期待として、遠隔医療の実施や災害に強い医療情報ネットワーク作り、医療現場への医師増員の三点が述べられました。また、栗山さんは患者側の立場でオーダーメイド医療のプロジェクトに関わった経験から、この種の研究や事業は成果が出るまでが長いことを話し、ToMMoには時間をかけて未来型医療の実現に向けて取り組んで欲しい、そして東北から医療を変えたいという心意気を持って欲しいと語りました。

本シンポジウムは、東日本大震災の経験を踏まえた新時代の医療を構築するために、ToMMoが進めていく事業について広く話し合う機会となりました。

03 | 講演後のディスカッションにて、会場の質問にこたえる川島医師。地域医療に従事する立場からToMMoへの期待を述べられました。

04 | 会場の様子。本シンポジウムはDate fm (77.1MHz 仙台) アナウンサーの石垣のりこさんの司会で進行しました。

宮城県山元町の特定健康診査会場に伺いました

ToMMoの事業をより良いものにしていくため、事前調査としてのアンケートに宮城県山元町の方々にご協力頂きました。この調査は予防医学・疫学部門の竇澤篤教授を中心に、ToMMoメンバーが山元町を訪ねて行いました。

東北メディカル・メガバンク機構 (ToMMo) は今後、医療面から地域を支援する活動や、最先端の医療を東北で作る事業を行います。これらの事業を良いものとするためには、地域の住民の方々の求めることやご意見を頂いた上で準備することが不可欠です。そこで今回、住民の方々の声を直接お聞きして事業を改善していくために、アンケートの形で事前調査を行いました。

宮城県亶理郡の山元町は、東日本大震災による津波で大きな被害を受けました。その山元町の公民館で行われた特定健康診査の会場に、2012年9月26日と10月3日-4日の3日間にわたって伺い、参加されている住民の方々に、ToMMoが行う事業の説明とアンケート調査を行いました。

会場にいらした住民の方々へは、医療支援や健康調査、さらに医療情報のネットワーク化等を来年度からToMMoが実施することについて、説明を行いました。それと並行して、アンケートでToMMoの行う事業へのご要望やご期待をお尋ねしました。

期間中は300人を超えるの方々へお声掛けしてアンケートを配布し、多くの方々にご記入頂きました。頂いたアンケートの回答は、東北メディカル・メガバンク事業をより良い形にして地域で実施するための参考にされます。

なお今回のアンケートの解析結果は、後日公開される予定です。



アンケートをお願いするToMMoメンバー



地域こども長期健康調査事業を開始

ToMMoは小中学生を対象にした地域子ども長期健康調査事業を開始しました。2012年度は岩沼市、亶理町、山元町でアンケート調査を実施しています。

予防医学・疫学部門

菊谷 昌浩 准教授

Profile

菊谷 昌浩 Masahiro Kikuya

東北メディカル・メガバンク機構予防医学・疫学部門准教授。宮城県仙台市出身。研修医を経験した後、岩手県の大迫コホートの研究に参加。東北メディカル・メガバンク機構では地域子ども長期健康調査事業に携わる。



七ヶ浜町 仮設住宅世話人会を訪問しました

2012年8月22日、山本雅之機構長らToMMoのメンバー8名が、宮城県七ヶ浜町 七ヶ浜生涯学習センターで行われた仮設住宅世話人会に赴きました。17名の世話人の方々と、七ヶ浜町役場、関係NPOの方々が出席され、山本機構長からの説明をもとに意見交換がされました。参加者の方々からは、医療情報ICT化によって、重複が避けられたり、手間が省けたりすることへの期待が語られる一方で、医師がパソコン画面に向かったままになるのではないか、といった不安も語られました。ToMMoからは、ICT化がきちんと設計されることによって、本来はパソコンを使う電子カルテの方が、紙のカルテよりも入力等に要する時間が減り、患者の方と向き合う時間が増えること、もともとカルテは医師だけのものではなく患者の方と共につくるものであるから一緒に画面を見るようにしていきたい、また、それにふさわしい医師教育の重要性が述べられました。

スマトラ島で2004年に起きた大地震津波の被災地では、震災後何年もたった後に疾患が増えました。東日本大震災の被災地でも、今後疾患が増える可能性があります。

地域子ども長期健康調査事業で行うアンケートは、災害弱者である子どもの疾患が震災によりどれだけ増えているのか、その現状を把握するための資料となります。また疾患を持っている子どもを病院での適切な疾患管理と治療につなげることを行いたいと思っています。

今回の地域子ども長期健康調査事業は

住民支援の事業という面を強く持つものです。調査が疾患の発見や健康意識の高まりにつながり、病気が減っていくことを期待しています。

以前、私が岩手県の大迫コホートという長期的な健康調査事業に参加した際には、健康調査の実施が調査協力者の健康意識を高め、医療費削減や住民健診の受診率増加につながることを目にしました。

このように今回の私たちが始めた調査のような事業には地域全体の健康を増進する面があります。だからこそ被災地で調査を

行う意味があると思っています。

大迫コホートに携わっていた時は、(年齢の人々が)元気で健康に生きられる寿命をどうやって延ばすかを考えていました。そして東北メディカル・メガバンク機構の地域子ども長期健康調査事業では、子どもたちの未来のために、と考えて事業を行っています。

* 2012年8月27日インタビューから再構成、インタビューの全体についてはToMMoウェブサイト参照
<http://www.megabank.tohoku.ac.jp/activities/01.html>



仮設住宅世話人の方々に前に説明を行う山本機構長。毎月開かれている世話人会の定例会の一部の時間をお借りして、近い未来に実現していく医療について意見交換を行いました。



PICKUP SCENE

2012年6月 - 10月の東北メディカル・メガバンク機構 (ToMMo) は事業の全体計画もかたまり、本格的な始動となった時期。さまざまな人々と出会い、さまざまな場所で、活動を広げています。

01 市町村長訪問

2012年1月 - 9月

地域の自治体と連携関係を築くために、ToMMoは各自治体を訪問してきました。9月末までに宮城県の全35の市町村長を山本雅之機構長自ら訪ね、事業への協力を要請、ご快諾頂きました。

02 栗山真理子さんをお迎えして勉強会を開催

2012年6月14日

日本患者会情報センター代表であり、NPO法人アレルギー児を支える全国ネット アラジーボットの専務理事でもある栗山真理子さんをToMMoの勉強会へお招きし、これまでの取り組みを伺い議論しました。

03 石田国家戦略担当副大臣が視察

2012年6月23日

石田副大臣は東北メディカル・メガバンク事業を「震災というピンチをチャンスに変えて、世界に発信していこうという事業だ」と評価されました。

04 萩ホールにて展示

2012年7月4日 - 9月24日

東北大学百周年記念会館 川内萩ホールで企画展示「東日本大震災から東北メディカル・メガバンク機構の設立へ」を行いました。ポスターや書籍、写真をご覧いただきました。

05 ToMMo新研究室合同紹介

2012年7月10日

2012年秋以降に新たに大学院生を受け入れ可能になった研究室の専任教員が、各研究室の説明を行いました。現在、ToMMo所属の大学院生になるためには、各研究室の教授がToMMoと兼任で所属する研究科の入試を受験して頂く形をとっています。

06 オープンキャンパス参加

2012年7月30日 - 31日

平成24年度東北大学オープンキャンパスに参加し、高校生を主対象に星陵キャンパスで展示を行いました。会場ではポスターを掲示し、ニュースレターやリーフレット、DNAカードの配布を行いました。

07 Date fmの番組制作

2012年5月 - 9月

21回にわたって、毎週月曜日にDate fm (77.1 MHz 仙台)の朝の番組 Crescendo内で「みんなでつくる未来の医療」と題したコーナーを制作、事業のさまざまな活動を紹介してきました。(この録音は機構のwebサイトで聴くことができます。)

08 平野博文文部科学大臣が来訪

2012年8月19日

平野大臣は東北メディカル・メガバンク事業について「政府全体として、東北の医療復興の拠点事業として考えている」と述べられ、人材育成の重要性について指摘されました。

09 シンガポール勉強会へ参加

2012年8月21日 - 22日

東北大学医学系グローバルCOEプログラム Network Medicine創生拠点がシンガポールで開催した勉強会に、ToMMoのメンバーが参加しました。現地では国立シンガポール大学がん科学研究所とのジョイントワークショップで講演を行うなどしました。

10 スウェーデン政府の調査団が来訪

2012年9月14日

東日本大震災などに対するフォローアップの一環としてスウェーデン政府が派遣した調査団をToMMoにお迎えし、東北メディカル・メガバンク事業について懇談を行いました。

11 ALSOとBLSOを石巻赤十字病院で開催

2012年9月15日 - 16日

産科救急のための教育プログラムであるALSOとBLSOを実施し、石巻近辺の救急救命士や医療関係者らに受講頂きました。この開催には、災害医療対策として災害時にお産へ対処できる人材を育てるという目的もあります。

12 石巻赤十字病院の赤十字健康まつりに出展

2012年9月29日

石巻赤十字病院で毎年行われる赤十字健康まつりに出展し、その場で行える簡単なDNA実験や、パネルによるゲノム・遺伝子についての解説、事業の紹介などを行いました。

欧州バイオバンク、ワークショップ視察

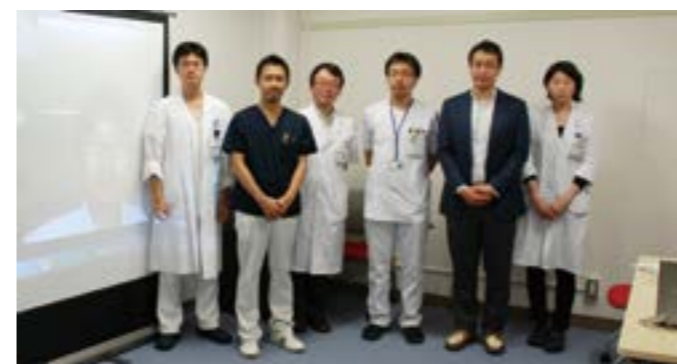
ゲノム解析部門 布施昇男 副部門長

今回、欧州バイオバンクの視察のため、フランス、ドイツに行ってきました。2012年6月25日に、バイオバンク部門の峯岸直子教授とともに、フランスのパリにある CEPH (Centre d'Etude du Polymorphisme Humain) を訪問し、東北メディカル・メガバンク機構 (ToMMo) の概要説明と、大規模なゲノムコホートを行うことを紹介しました。CEPHは1984年に数十の大家系の遺伝子DNAバンクとしてスタートし、ヒトの遺伝的地図と物理的地図の統合に大きな貢献をするとともに、多くの遺伝病原因遺伝子の発見に寄与しています。所長の Dr. Hélène Blanché-Koch には、CEPH における自動化されたサンプル調整などを紹介してもらい視察を行いました。30年近く運用されてきたその実績は、たいへん参考になりました。

また、その日のうちにドイツのヒンデン (デュッセルドルフ近郊) に向かい、予防医学・疫学部門の菊谷昌浩准教授、石黒真美助手、医療情報 ICT 部門の萩島創一講師と合流、翌 26 日

からの Biobank Technology Workshop に参加しました。一日かけて、DNA、RNA 自動化精製装置による大量の検体の調整を、実際に視察しました。次の一日は、ヨーロッパのバイオバンクの Workshop で、各国に多数あるバイオバンクにおける検体収集の標準化が大きな話題でした。言語、システムが違うバイオバンク間で統一した基準を作っているのが印象的でした。また、ドイツで行われている National Cohort の紹介では、20万人のコホートということで、規模も ToMMo に似ており参考になりました。

今回の視察では欧州のバイオバンクの現状を肌で感じられ、各施設における今後の課題も知ることができました。欧州と積極的な共同体制を作っていくことも大事だと感じました。一番の収穫は、ToMMo の活動紹介ができたこと、連携の可能性を示すことができたことです。今後、世界に向けた発信と、世界との連携を目指して頑張っていきたいと思えます。



ToMMo クリニカル・フェロー制度の創設

東北メディカル・メガバンク機構 (ToMMo) は、東日本大震災で疲弊し、また、もともと医療過疎に苦しんでいた地域を支援するため、循環型医師支援システムを提案してきました。機構は、2012年10月、このシステムを実際に担う医師の方々10名を、ToMMo クリニカル・フェローに任命しました。

循環型医師支援システムでは、ToMMo が任命する ToMMo クリニカル・フェローは、1年間のうち一定期間、地域医療機関に勤務し、残りの期間、ToMMo で研究などに従事します。この制度を利用して、10月から、南三陸町に3人、女川町に1人、常勤医師が着任しました。ToMMo の事業により、地域医療支援が具体的な形となる最初のケースとなりました。

今後、ToMMo では本制度の活用を広げ、大学からの厚いサポートを受けながら、宮城県の太平洋沿岸部での医療活動に従事できるこのシステムを利用する医師が増え、当該地域の医療と ToMMo の事業とが共に発展していけるよう計画しています。

東北メディカル・メガバンク事業に対して

文部科学省研究振興局 吉田大輔 局長

宮城県・東北大学協力協定調印式 (2012年9月18日) での御挨拶から抜粋

本事業は、昨年6月の第9回東日本大震災復興構想会議における、村井知事からの御提案を踏まえ、昨年7月の「東日本大震災からの復興の基本方針」に盛り込まれたことを受けて、被災地住民の方々の健康管理への貢献と、東北発の次世代医療の実現を目指す復興事業として開始されたものです。

その後、本年に入り、6月に政府の医療イノベーション会議が決定した「医療イノベーション5か年戦略」や、7月に閣議決定された「日本再生戦略」において、本事業は重点施策として位置づけられました。これもひとえに、宮城県における実施主体である東北大学が昨年来、事業立ち上げに御尽力されていることに加え、宮城県、県内自治体、県医師会、医療機関等の方々の御支援の賜物と考えております。

今後、本事業が所期の目標を達成するためには、東北大学が自治体を始めとする関係者の方々と長期的な信頼関係を構築し、皆様の御協力を頂きながら事業を推進いただくことが重要です。この観点から、本日県との協力協定が締結されることは大変時宜にかなっているものであり、これを契機に、より一層、東北大学、宮城県の自治体等の関係者の方々と一丸となって事業が推進されることを期待しております。文部科学省としても、引き続き本復興事業をしっかりと支援してまいります。



JUNE

- ・日本トラウマティック・ストレス学会で富田教授（予防医学・疫学部門）が講演。
- ・日本患者会情報センター代表の栗山さんをお迎えして勉強会。
- ・山本機構長が Oxygen Club of California and Jarrow Formulas Health Science Prize を受賞。
- ・石田国家戦略担当副大臣が視察。
- ・「ICT推進フェア2012 in 東北」で中谷教授（医療情報 ICT部門）が講演。

JULY

- ・東松島市 / 阿部市長、松島町 / 大橋町長、多賀城市 / 菊地市長、塩竈市 / 佐藤市長を山本機構長らが訪問。
- ・川内萩ホールで企画展示を開始（～9月末）。
- ・東北大学薬学研究科の平塚准教授をお迎えして勉強会。
- ・ToMMo 新研究室合同紹介を開催。
- ・理化学研究所ゲノム医科学研究センターの久保副センター長（センター長職務代行）をお迎えして講演会。
- ・千葉大学の鈴木准教授をお迎えして勉強会。
- ・宮城県公衆衛生学会で辻部門長（予防医学・疫学部門）が講演、栗山部門長（バイオバンク部門）がシンポジウムに参加。
- ・ヘルスケア・イノベーション・フォーラムで清元教授（地域医療支援部門）が発表。
- ・東北大学病院市民公開講座で辻部門長（予防医学・疫学部門）が講演。
- ・文部科学省山中審議官が視察。
- ・東北大学オープンキャンパスに参加。

AUGUST

- ・利府町 / 鈴木町長、加美町 / 猪股町長、色麻町 / 伊藤町長、美里町 / 佐々木町長を山本機構長らが訪問。
- ・日本学術会議第二部市民公開講演会「東北地方の復興・新生に向けて：アカデミアの果たす役割」で中山部門長（人材育成部門）が講演。
- ・日本DOHaD研究会で目時講師（予防医学・疫学部門）が講演。
- ・平野文部科学大臣が山本機構長らと懇談。
- ・シンガポール勉強会へ参加。
- ・七ヶ浜町 仮設住宅世話人会を訪問。

SEPTEMBER

- ・富谷町 / 若生町長、川崎町 / 小山町長、蔵王町 / 村上町長、大衡村 / 跡部村長、大和町 / 浅野町長、涌谷町 / 安部町長、丸森町 / 保科町長、柴田町 / 滝口町長、村田町 / 佐藤町長、大郷町 / 赤間町長、七ヶ宿町 / 梅津町長、大河原町 / 齋町長を山本機構長らが訪問。
- ・東北大学病院の坪井准教授をお迎えして勉強会開催。
- ・東京大学の戸田特任研究員をお迎えして勉強会開催。
- ・スウェーデン政府の調査団が来訪。
- ・日本フライブルグ・アルム二会で清元教授（地域医療支援部門）が講演。
- ・ALSOとBLSOを石巻赤十字病院で開催。
- ・東北メディカル・メガバンク事業 宮城県・東北大学協力協定調印式典を開催。
- ・富田教授（予防医学・疫学部門）が APRU Research Symposium on Multi-hazards around the Pacific Rim で講演。
- ・長崎教授（ゲノム解析部門）が化学工学会で講演。
- ・Date fm の番組「Crescendo」内のコーナー「みんなで作る未来の医療」最終回。
- ・石巻赤十字病院にて赤十字健康まつりに出展。
- ・東北大学サイエンスカフェに大隅部門長（広報・企画部門）が出演。

OCTOBER

- ・シンポジウム「みんなで作る未来の医療－東北メディカル・メガバンク事業ができること－」開催。

Editor in chief | Fuji Nagami

Writer | Maiko Kageyama

Designer | Miho Kuriki

発行日 | 2012.11.19

発行 | 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構

980-8573 仙台市青葉区星陵町 2-1

TEL 022-717-8078 URL www.megabank.tohoku.ac.jp

印刷 | 今野印刷株式会社

URL www.konp.co.jp/

All rights reserved. 本書の収録内容の無断転載、複写、引用等を禁じます。

www.megabank.tohoku.ac.jp